

長畝ふるさと通信

【2014年3月号】

■ 春作業開始！忙しくなってきました

① 畦塗り・・・トラクターに畦塗り用のパーツを装着して畦塗りをします。以前はそれぞれが人力で何日もかけて畦を塗っていましたが、今では100メートルを20分足らずで仕上げてしまいます。機械の性能も改良され、まっすぐ綺麗な畦がぬれるようになりました。それでも全ての田んぼの畦塗りを終えるには、2週間以上かかりますが・・・。



② 耕耘・・・畦を塗り終えた田んぼには水が張られ、土を軟らかくするためにトラクターで耕耘していきます。田んぼの表面のデコボコが、トラクターで土を細かくしながらならしていくことで、平らになっていきます。左の写真は最後の「一列」の耕耘を残すのみとなった田んぼです。平らになった水面がお日様に反射してキラキラと輝いています。

トラクターはパーツを取り替えてやれば、田んぼの耕耘以外に畦塗りや草刈り、肥料散布や大豆の種まき、畝立て、溝掘りなど何でもこなす万能機械です。田植機やコンバイン（稲刈り）は一ヶ月も稼働しませんが、トラクターはほぼオールシーズン稼働する農業機械の優れものです。組合には5台のトラクターが有りますが、維持管理には相当の経費がかかっています。



③ 江流・・・春の一大イベント「江流」は今年も冷たい春雨の中、行われました。集落内に流れる



田んぼの排水路(要するに川)に堆積した泥を掻き出し、水の流れを良くするのです。1年間、田んぼから流れ出る水には多くの泥が混ざり、川底に堆積します。そのまま放置してしまうと川の流れが悪くなってしまいますので、春作業が始まる前のこの時期に、百姓総出で取りかかるのです。長畝集落も御多分に漏れず高齢化のため参加者が

減少の一途をたどっており、最近では「青年会」のお兄さんたちにも協力(むりやり)してもらいながら、何とか維持しています。

作業中、多くのドジョウや越冬したヤマアカガエルが出てきました。春を待っていたのは我々人間だけではないんです。



④ 種まきの準備も万全・・・種籾は3月中旬から冷たい水に2週間以上漬け、たっぷりと水分を吸わせてふっくら飴色に変わります。育苗ハウスや暴風ネットはお天気の良い日に補修作業を終え、いつでも苗箱が入るようにスタンバイOK。育苗施設の周辺には約18,000箱の苗箱が積まれ、4月に入るといよいよ種を播きます。

26年産米の作付けが本格的に始まりました。「もっと美味しく、より安心、生きものいっぱい」長畝田んぼを今年も応援して下さい！